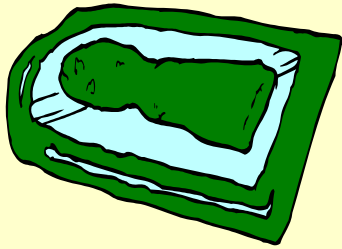




歷史



主な内容

縄文時代
弥生時代
古墳時代
奈良時代・平安時代

木島平村では、旧石器時代の遺跡はまだ発見されていません。人々の生活の跡が認められるのは、縄文時代に入ってからです。ただし、村内における遺跡調査は、詳細な分布調査が行われたわけではなく、数箇所^の調査だけで得られた資料によってごく一部が明らかになっただけにすぎないので、時代説明はできません。このため、ここでは、各時代の代表的な遺跡を紹介することに留めます。

■縄文時代■

村内で発見された縄文時代の遺跡は、数多く広範囲に分布しています。

代表的なものとしては、三枚原遺跡があります。この遺跡は、馬曲川扇状地の扇央部、稻荷集落の南方に位置し、縄文時代草創期末^{びょうりじょうもん ど き}の表裏縄文土器、早期^{おしがたもん ど き}の押型文土器が出土した村内最古の遺跡で、全県的にも著名です。

■弥生時代■

弥生時代の遺跡は、まだ数箇所しか発見されていませんが、その中では、平成8年から12年まで調査が行われた根塚遺跡における新たな発見が特筆されます。平成8年に発見された「渦巻文装飾付鉄剣^{うずまきもんそうしよくつきてつけん}」は、その特異な形態から当時の朝鮮半島南部との交流が想起され、全国的にも大きな話題を呼びました。

渦巻文装飾付鉄剣
(下写真：柄部分×線撮影)





原始・古代

この鉄剣は、この時代のものとして渦巻文を装飾に持つ国内唯一の剣で、長さも74cmあり、現在のところ国内では最長の鉄剣です。

また、平成10年に発見された「大」と刻まれた土器は、東日本最古の文字（文字か否かは現在諸説分かれています）で、筆順が6世紀の朝鮮半島の土器に同様に見られることから、鉄剣の発見にも劣らない注目を浴びました。

平成17年、貼石を持つ円形の墳丘等は全国的に類例のない遺跡として県史跡に、出土遺物（鉄剣、土器、^{まがたま}勾玉、^{くがたま}管玉、ガラス小玉等）は、一括して県宝に指定されました。

出土遺物



■古墳時代■

古墳時代の遺跡として、和栗古墳、朝日ゴウロ古墳、鬼の釜古墳があります。

いずれも積石塚古墳ですが、和栗と朝日ゴウロの両古墳から、直刀や土器等が発見されています。

積石塚古墳は朝鮮半島に多く存在することから、渡来系の古墳といわれています。



和栗古墳

■奈良時代・平安時代■

木島平村を含む岳北地方（飯山市、野沢温泉村、栄村）では、奈良時代の遺跡はまだ発見されていません。これは、この地方における大きな謎となっています。

しかし、平安時代の遺跡は数多く発見されています。代表的なものとしては、北鴨第2住宅地の^{かにさわ}蟹沢遺跡があり、発掘調査によって十数基の住居跡と須恵器、土師器等の遺物が発見されました。

住居跡





■郷の発達■

主な内容

郷の発達
兵糧料所の役割
中世の山城

鎌倉時代には、岳北地方では志久見、犬甘（犬飼）、毛見、木島等の郷が文献に現れ、ついで檜生（柏尾）と馬場の郷が出現しています。木島平の地域は、樽川と馬曲川の扇状地として広がっていますが、樽川を境として南部は木島郷、これより北部の馬曲川に至る地域は毛見郷、馬曲川以北は犬飼郷でした。その当時の3地域には木島氏、毛見氏、犬飼氏、小見氏が現われて来ます。

木島郷5カ村に属していた上木島村が、現在の上木島です。地頭は木島氏で、南北朝時代に岳北地方に進出し勢力をのびした高梨氏に属し活躍していたことが『市河文書』に見えます。

毛見郷は、鎌倉時代から居住した土豪の毛見氏が知行していました。南北朝時代の観応2年（1357）には本栖・平沢の地頭職であったことが古文書に出てきます。当時、毛見郷には本栖・野沢・宮之島の3カ村があり、平原（平沢）もその中に組み込まれていた時期もありました。毛見氏の一族であった本栖氏は小菅神社の観音板絵を寄進したり、諏訪社花会の頭役（神事への奉仕）を勤めたりしています。

文献には、このほかに千石、瀬屋沢（部谷沢）、中島、長沢等の村落が登場しますが、今では比定地が不明の所も見られます。

犬飼郷は、犬飼郷南条が南鴨ヶ原村、北鴨ヶ原村の地域にあたり、犬飼郷中村が中村、和栗村、小見村、稲荷村、内山村の集落でした。犬飼郷は最初は犬甘氏が知行していましたが、のちに高梨氏や浅野氏にかわっています。犬飼北条と犬飼中村には兵糧料所ひょうろうりょうりょうしよが設けられたことがありました。



■兵糧料所の役割

南北朝時代になると武士の戦闘範囲が拡大したため、兵糧米は現地調達の方法をとらざるをえなくなりました。そこで幕府は支配地以外の荘園にまで年貢米の半分を兵糧米として課し、軍事上の要地には兵糧料所として、その管理を守護に命じました。

当時の越後（新潟県）は新田氏の領国であり、南朝側の有力な地盤で常に幕府に抵抗を続けてきた地方です。新たな幕府の政策は、越後の国人に衝撃を与え、不穏な情勢が生じました。そこで幕府ならびに鎌倉府は、越後に接する志久見（栄村など）を始め、奥信濃の各所に兵糧料所を増設することで対処しました。守護の小笠原氏は、志久見郷内の兵糧料所を市河頼房に預けることになりました。その後信濃の国は、幕府の直轄領となり、守護は斯波氏に交替しました。それによって国人の反抗は激しさを増し、混乱の度を極めました。幕府は、至徳4年（1387）、高梨氏等この地域の反守護土豪に備えて、犬飼北条と犬飼中村にも兵糧料所を設けました。

■中世の城山■

この地域の城山としては、牧ノ入城跡、計見城（日向城）、平沢城、部谷沢城、犬飼城等があります。

《平沢城》

この山城は計見郷の北端に位置し、鎌倉時代ごろから馬曲を通り志久見への道を押える要衝でした。毛見氏の一党であった平沢氏の守城とも考えられます。平沢氏は、文明6年（1474）には諏訪上社の頭役を勤めています。

戸立岩側から山城へ上ると、老松がある第三郭に出ます。この位置が山の最高所で、馬曲集落を眼下に望むことができます。尾根伝いに30メートルほど下り大空堀を経て第二郭に到ります。さらに30メートル下ると深さ3メートル、幅5メートルの三筋の大空堀があり、ここを越えると眺望のよい、最も広く平坦な本郭に達します。

平沢城跡





《犬飼城》

和栗の東方、万仏山^{まんぶつさん}から伸びた尾根上の突端にある城山(864m)が犬飼城です。

本郭は50m×50mで、本郭の北部と東部には高さ3mほどの土塁が残っています。東の尾根には5本の空堀、北側は急斜面、西方の尾根は緩傾斜で月見石、観音岩、物見石などの巨石と六条の空堀が見られます。ここを下ると稲荷の集落に出ます。

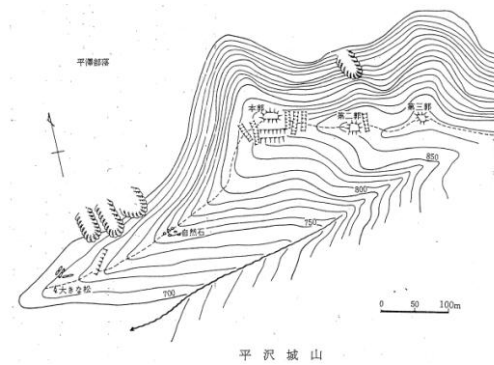
本郭からは中世(鎌倉～戦国時代)の陶器や穀物の炭化物が発見されています。

犬飼城跡



山城の実測図

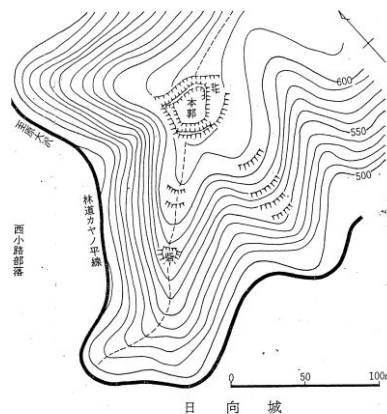
平沢城



犬飼城



計見城(日向城)





主な内容

村落の成立
 村の制度と生活
 村人の成長と訴え
 農村文化の開花

■ 村落の成立 ■

飯山藩主 ^{まつだいらただとも}松平忠俱 (1639～) の治政下、普請奉行の ^{のだきざえもん}野田喜左衛門 によって、大規模な ^{かわ}川 ^{ぶしん}普請や灌漑用水堰開削と新田開発が行なわれました。

さらに、幕府の方針に基づいて飯山藩領内でも検地が実施されました。村と村との境が意識されるようになると、上木島村と夜間瀬村（山ノ内町）との間で、^{だいもちさか}大持坂の帰属を巡って争いが起こりました。

この争いは山の ^{いりあいけん}入会権に発展すると同時に、樽川の水利権にも重大な影響をもっていました。木島平 18 カ村が一致団結するとともに、^{ながさか おりべ}長坂織部等の努力によって、元禄 11 年 (1698)、木島平側の入会権が幕府によって認められました。

幕府裁許絵図(裏)



幕府裁許文(表)





江戸時代には、年貢を割り当てるために、どの村でも検地が行なわれました。それも村の責任で一括して納める^{むらう}村請け制の形をとりました。

木島平の村落の様子が明らかになってくるのは、慶長7年（1602）の^{もりう こん ただまき}森右近忠政の検地からです。森忠政が高井・水内・更科・埴科の四郡を検地したときの検地帳には、上木島・計見・高石・平沢・馬曲・鴨原・中村・内山・和栗の9カ村の名が記されています。これら9カ村は、戦国時代の終わりころまでには成立していたことがわかります。

木島平域の村落がほぼ確定するのは、飯山藩が行なった慶安検地（1648～）、あるいは寛文検地（1661～）によります。このときの検地帳はその後幕末まで使用される土地基本台帳になり、どの村にも保管され今に伝えられています。

■ 村の制度と生活 ■

天領（幕府領）村々の政治は江戸の代官が行ないましたから、村人を代表する村役人を決めて責任を託し、行政を執行するしくみがとられました。村役人には名主（庄屋）と組頭、のちに百姓代も置かれました。

江戸時代のはじめは、名主は村の有力者が世襲する 경우가多く、中期以降は交替制や本百姓全員の選挙によって決めることもありました。また、隣り近所五軒ほどを一組とする五人組を作り、連帯責任制がとられました。

さらに、幕府は寺院にたいして毎年『^{しゅうもん にんべつ あらたまちょう}宗門人別改帳』を作成させ、住民の^{しゅうしちやうき}宗旨調査を行なわせました。この改帳は一軒ごとの戸籍簿の性格をもっていました。これらの制度の下で、幕府の支配とともに村人の結びつきがしだいに強まってきました。

幕府財政が困難になると、天領の村々に「江戸廻米せよ」という通達が、^{かいまい}明和4年（1767年）に出されました。この頃になると、年貢を現金で納める村が増えたため、江戸の米が不足してきたのです。

この通達に対して岳北の村々は、冬の米輸送は特に困難であることから激しく抵抗しました。幕府も一旦は折れて廻米を撤回しましたが、こんどは年貢の完納期月を3月から正月



に繰り上げることを通知してきました。

そのため村人たちは、さらに強固な反対運動を展開し、中野陣屋(幕府の代官所)に押しかける安永騒動(1777)に発展しました。この騒動の後、厳しい取調べが行なわれ、首謀者は獄門や遠島、あるいは追放となりました。その中には木島平の人も名を連ねていました。多額の罰金が課せられるなど、大きな犠牲を払いながらも、結果的には新田検地が新たに実施され、年貢が増徴されることになってしまいました。

■村人の成長と訴え■

当時の主要農産物として米の他に、大豆・粟・稗^{ひえ}・そば・大根の栽培が『差出明細帳』に記録されています。また、和紙の原料となる楮(こうぞ)の生産も盛んでした。宝永3年(1706)、飯山藩^{ごうそんだかちょう}の『郷村高帳』によ

ると、南鴨ヶ原、計見、市之割の3カ村に楮生産の年貢金が課されています。内山村では紙漉き商売に課税されています。

中期以降(1760年頃～)になると、換金作物として菜種・木綿・桑が栽培されました。幕末には開国による生糸輸出の影響により、養蚕業が活発におこなわれました。

内山紙は古くから障子紙、提灯の張り紙、^{さんらんげんし}蚕卵原紙として、信濃国内はもとより他国にも広い販路をもっていました。内山には紙漉き技術とともに良質で豊富な清水が湧き出しており、条件が整っていたからです。

楮の皮の乾燥



内山手すき和紙体験の家

〒389-2301
長野県下高井郡木島平村大字穂高1143-3
電話・FAX 0269 (82) 4151





天保期（1830年～）には製紙法の改良によって諸村に広がり、奥信濃豪雪地帯の特産品となりました。江戸奉公やよそへ冬稼ぎに出ざるを得なかった村人にとって、紙漉きは冬仕事として重要な賃稼ぎとなりました。

馬曲川と樽川は、村々の水田地帯を潤すと同時に飲用水としても恩恵を受けてきた川です。しかし、村人にとって洪水や水利権争いにもつながる悩みの川でもありました。寛保2年（1742）の千曲川の大洪水（戌の満水）、弘化4年（1847）の善光寺大地震、天明（1782～87）・天保（1833～39）の飢饉は、各地に大打撃を与えました。これらの災害は人々の生活を困窮させたため、年貢の軽減要求が頻繁におこなわれました。

幕末になると、幕府や諸藩への献金・献米に加え、普請や助郷にかりだされることもあったため、村人の負担や不満は大きくなりました。大政奉還後、新政府が樹立されましたが、村人の期待に反して生活を圧迫する政策がつづきました。

明治3年（1870）12月に、農民の怒りが爆発し、伊那県から分離独立したばかりの中野県庁下で一揆が勃発しました。中野県庁へ群集がなだれ込みました。町でも村でも放火や打ち壊しが行なわれました。

騒動後には容赦ない取調べが行なわれ、死罪人・徒刑者の数の多さでは全国に比類がない結末となりました。この一揆後には、県庁が中野から長野へ移庁されました。

■農村文化の開花■

村々には多くの神社や寺院、堂が残されています。村人の信仰心の深さとともに、そこに奉納されている俳額や算額によって、江戸時代の村人たちが、文化への高い関心と深い教養をもっていたことがわかります。

木島平村内には2神社3寺院に8面の算額があります。人口比からみて全国でもまれにみる数が存在しているため、和算研究者から大いに注目されています。江戸時代に行なわれた数学は和算と呼ばれていますが、その祖は江戸の関孝和（1642-1708）で、関の教えは全国に広がりました。



木島平村内では計見村の野口保徹^{のぐちやすたか}とその門人による奉納額がもつとも古く、野口の門下生は木島平を中心として、遠くは越後の魚沼郡にまで及んでいます。算額は考案した問題について算法と解答を公開することと、難解な問題が解けたお礼として奉納したといわれます。

村で活躍した和算家たちは、競うように寺社に算額を奉納しました。その内容も相当高いレベルに達していることが明らかになっています。

また、江戸時代の後期になると、俳額が寺社に奉納されるようになります。奉納者は村内在住の俳人を中心にしながら、飯山・中野はもとより江戸や越後・甲斐（山梨県）など広範囲に及んでいます。「滝見連」という同好者名も残されており、この時期、村人のなかに俳句を嗜む人がかなり多かったことがうかがえます。

さらに、木島平村内に点在する多くの筆塚や頌徳碑^{しょうとくひ}によって、寺子屋が普及していたことがわかります。木島平ではおもに寺の住職が師匠でした。読み書きや和算によって子弟教育に力を注ぎ、地元はもとより遠くから多くの門弟を集めた師匠もいたほどです。寺子屋の敷地内に天満宮が祀られた事例もあります。教育に力を入れる村の風土が、江戸時代の後期にはできていました。

水穂神社の算額





主な内容

- 村の誕生と合併
- 学校教育の進展
- 米作り農業と村の生活
- 戦後の農業と観光開発

■村の誕生と合併■

明治維新から、西欧の思想や技術文明の影響を受けながら日本の近代化が進行してきました。明治から大正、昭和、平成へと進む木島平の動きを、村の行政変革、学校教育の進展、稲作農業の生活に視点を絞って概括しておきます。

明治維新から間もない明治4年7月に^{はいほんちけん}廃藩置県が行われ、新しい行政区が編成されました。その後、木島平村の元となる上木島村・往郷村・穂高村が誕生します。明治9年5月に往郷村が8カ村の合併で、穂高村が6カ村の合併で発足しました。上木島村は明治11年3月に、旧上木島村に山口新田村が合併して発足しました。

上木島村 (旧上木島村、大町、中町、西町、寒沢新田) ※柳久保、千の平、糠塚、池の平は小字名	307戸	1,616人	上木島村 (明治12年3月)	334戸 1,893人
山口新田村 ※字木島から小松原に移転	27戸	277人		
計見村 (中島、西小路)	164戸	739人	往郷村 (明治9年5月)	494戸 2,692人
計見新田村 (部谷沢、原大沢、千石、四の宮)	70戸	316人		
市之割村	68戸	298人		
馬曲村	52戸	255人		
平沢村	52戸	230人		
南鴨ヶ原村	44戸	211人		
高石村	25戸	211人		
庚新田村	22戸	96人		
中村	77戸	302人	穂高村 (明治9年5月)	312戸 1,725人
小見村	36戸	168人		
和栗村	28戸	156人		
稲荷村	30戸	141人		
北鴨ヶ原村	55戸	253人		
内山村	62戸	274人		



○昭和の新村合併

昭和 29 年 9 月に公布された町村合併促進法により上木島、往郷、穂高の 3 カ村は合併に向けて踏み出し、昭和 30 年に合併となりました。

合併時の人口は 8,206 人戸数 1,533 戸でした。合併の際

に決められた主な基本条件は次のとおりです。

- ① 岳北 5 カ村（上木島・往郷・穂高・木島・瑞穂）の合併を前提とした 3 カ村の合併
- ② 農業生産を中核とする近代的理想農村の建設
- ③ 幹線道路の敷設による交通の充実
- ④ 通年保育所の設置による児童福祉の充実
- ⑤ 全村水道を計画し、年次別設置計画による事業の推進

合併調印式 昭和 30（1955）年



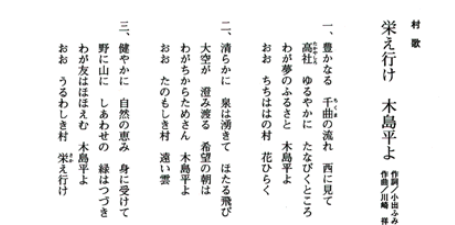
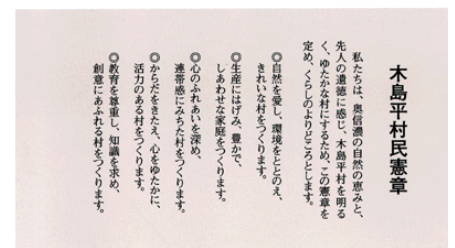
〔村民憲章と村歌・村花〕

新村木島平が発足して満 20 年に当たる昭和 50 年 2 月 1 日、村民会館において「20 周年記念宣言の日」式典が開催され、そこで村民憲章と村歌・村花の制定が決議されました。

その年 7 月 15 日に開催された木島平村発足 20 周年記念式典において村民憲章は満場一致で決定され、同時に希望溢れる村歌が発表されました。

村花は、全村民のアンケートによって福寿草が選定されました。冬期間に雪の下で耐え、雪どけとともに芽をふき開花する福寿草は、北国の厳しい自然を克服し、地域づくりに励む村を象徴しており、村民にとって広く愛される花となっています。

村歌「栄行け木島平」





■学校教育の進展

○平成の合併協議

全国で平成の大合併が進められる中で、平成 16 年 3 月、村議会定例会で「合併はせず、自立の村づくりを進める」ことを決定しました。平成 6 年に村に進んだ文化があったことを伝える鉄剣や土器の出土があり、「有機の里づくり」「協働の村づくり」が進められ、平成 17 年からは村づくりの長期計画「第 5 次総合振興計画」が実施され、村政が運営されています。

明治 5 年 8 月に学制が發布されると、その直後に木島平では 3 つの小学校が設立されています。上木島学校（のち上木島小）、求道学校（のち往郷小）、六合学校（のち穂高小）の三校です。寺小屋から小学校へと教育を尊重する村民の意志がつながっていました。明治 23 年には下高井高等小学校の穂高分教場が創立され、後に穂高尋常高等小学校と改称され 3 校の高等科生が委託されました。明治 39 年 4 月下高井郡立下高井農林学校が設立されました。大正期までのその卒業生の約 35 パーセントが木島平村出身者であり、郷土発展の基盤が築かれました。県立飯山中学校は長野中学校の分校として明治 36 年に開校、同 39 年に独立校し、現在の飯山北高等学校へとつながっています。

大正初期には教育に対する無理解や貧困などにより就学率はまだ低い状況でした。明治後半からの子守のための特別学級には 3 村で 141 名もいました。そこで、地域の有力者や学校職員が就学を促し、大正期終り頃には 3 小学校とも 99 パーセントの就学率に近づくことができました。大正 8 年に小学校令が改正され、高等小学校の教育に力がそそがれました。大正期に運動会、学芸会、修学旅行等の行事も盛んになり、教育費や施設面も大きく発展しました。大正 10 年には下水内高等女学校（飯山南高等学校の前身）が開校しました。

昭和初期の不況は上級学校入学者の減少につながりましたが、この地域の飯山中学や農林学校への進学者は他村に比べて多く、苦しい生活の中でも子弟教育に力を入れていたことがわかります。戦時下においては小学校が国民学校に改められ、皇国の道を修練させることがめざされ、戦局が深刻化



■米作り農業と 村の生活■

すると勤労奉仕の仕事へ参加するようになりました。

第2次世界大戦に敗北して、軍国主義教育が改められ、教育の民主化が進められます。

昭和22年、教育基本法などが制定され、戦後の新教育がスタートしました。六三制の実施により義務教育が9カ年に延長されます。明治から昭和初期においては、大部分の小学生は6年を終えるとすぐに職に就き、ごく少数しか中学校に進学していない状況でしたので、義務教育の延長は教育史上画期的なことでした。この新学制により3校はそれぞれ上木島、往郷、穂高小学校と改称し開校されました。また、新制中学校が各校舎に併用新設されました。しかし、小規模な中学校の経営は、教育内容や経費面で不利でした。そこで、3カ村による組合立中学校の設置の議論が起こり、昭和26年12月組合立木島平中学校の落成となりました。

その後、昭和30年木島平村発足とともに南部、中部、北部小学校と名前を変え、児童数の減少等により、平成22年4月に3小学校が統合され、木島平小学校となりました。

○米作りと特産品

木島平地域は樽川、馬曲川が扇状地を作り、その末端が水田地帯として開けています。網の目状の用水堰や豊富な湧き水が利用できる水利に恵まれた山麓農村です。今日名声をあげている木島平米は、苦土含有量の多い土質と良質の水に恵まれて、米栽培に力を尽くしてきた先人の努力によっています。

明治時代には全戸数の約9割に及ぶ大部分が農家で、家族労働を中心にして米作りに力を注いできました。その傾向は大正時代まで続きます。穂高地区だけは農家戸数が減少し、商業化の傾向があらわれていました。

日露戦争を経て日本の工業化、商品経済化が進行してくると全国的には自作農家の減少傾向が現れます。

良質な水に恵まれた木島平のたんぼ





しかし、木島平では養蚕、内山紙製造、製炭業などの商業的農業や副業の現金収入が支えになり、そのような傾向とは異なっていました。

大正期にはホップの栽培も行なわれ、昭和初期にはビール需用増大によって安定作物として注目され、米、繭、木炭と並ぶ4大産業のひとつに数えられました。

村人は昔から稲作にまつわる祭りや各種の行事を生活の中に取り入れ、各地区で受け継がれています。

○農村の近代化

大正時代になるとようやく木島平村へも近代文明の恩恵がもたらされ、大正9年にはじめて電灯が点り、ランプから電灯の生活へと変わっていきます。当時は、電灯を引くためには各地区で電柱を用意しなければなりませんでした。そのため、各地区とも自分たちの山から木を切り出し、電灯会社の人といっしょに電柱を立てました。当時は、各家庭に1灯だけ、しかも送電時間は夜だけでした。

大正10年8月飯山鉄道の豊野、飯山間の営業開始、同12年には十日町までの全線開通、同14年7月河東鉄道の中野、木島間が開通しました。村道の整備とともに鉄道の開通は地域の物流を促し、農業生産を高め、日常生活を豊かにすることに貢献しました。

村で一般家庭が電話を設置し、通話できるようになったのは昭和5年です。家庭用電話交換が中村郵便局で行われるようになりました。しかし、最初の中村局内の電話は20台で、役場や医者、商店などに限られていました。

農業の機械化



飯山線 飯山駅





○米価の動き

米は、昭和初期の米穀統制法施行前まで自由販売でした。当時は、東京の深川と神田川の両市場における取引値が標準となっていました。その後、政府が決定する公定米価になり、自由な売買ができなくなりました。

《米価の動き》

明治 元年	2.4 円	昭和 5 年	10.8 円	昭和 50 年	15,540 円
10 年	2.4 円	10 年	12.0 円	55 年	17,700 円
20 年	1.8 円	15 年	17.4 円	60 年	18,660 円
30 年	4.8 円	20 年	1,200 円	平成 元年	16,500 円
40 年	6.6 円	25 年	2,520 円	5 年	16,300 円
大正 元年	8.4 円	30 年	4,080 円	7 年	食管制度 廃止
5 年	5.4 円	35 年	4,140 円		
10 年	11.4 円	40 年	6,540 円		
15 年	15.0 円	45 年	8,280 円		

注) 玄米 60kg あたり。中町区史より

注) 国が米の価格を管理する食糧管理制度は、昭和 17 年に始まり、平成 7 年に廃止となりました。以降の米価格は、自由競争になりました。

○食糧配給と食生活

太平洋戦争の戦線拡大にともない、軍部や軍需工業での米の消費が増大しました。一方、農村では労働力の不足などにより米の生産量が減り、米不足による米価高となりました。

昭和 15 年 11 月には米穀切符制となり、全食料品が配給制となりました。また、主食の米は強制出荷が行われました。

《主食の糧配給基準（昭和 20 年）》

年齢等	配給基準量	
一般	1才～2才	120g (約8勺)
	3才～5才	170g (約1合2勺)
	6才～10才	250g (約1合8勺)
	11才～15才	360g (約2号5勺)
	16才～60才	330g (約2号3勺)
重労働男子	400g (約2号8勺)	
61歳以上	300g (約2号1勺)	
妊婦	50gの特配(加算)	

注) 長野県政史より

昭和 19 年に砂糖の配給が停止され、菓子類は店頭から姿を消すことになりました。そのためサツマイモ、カボチャなどの甘みが、この上ない糖分とされていました。

米の増産が叫ばれるとともに、空き地を利用して、サツマイモ、ジャガイモ、大豆などが栽培されました。この頃小学校の校庭も大部分は畑に開墾され、食糧増産に一役買っていました。



■戦後の農業と 観光開発■

○戦後の農地改革

農地改革は、わが国の地主制を根本的に改め、農村の民主化を進めるための画期的な改革でした。当時の農村は、何らかの改革をしないと農民の生産意欲の昂揚と食糧事情を解決することができなかつたのです。



この法律は、昭和21年6月にGHQ勧告によって成立しました。その内容は、「不在地主*の全ての小作地と在村地主の80a以上の小作地を強制的に国が買い取り、小作人に売り渡し、残る小作地は金納とする」というものでした。

※「不在地主」：村に住まないで農地だけを貸している地主
「在村地主」：村に住み農地を貸している地主

《上木島村の自作・小作農地の面積と専・兼業別農家数》

	昭和17年	昭和24年
自作地 田	124.8ha	188.5ha
自作地 畑	93.2ha	103.9ha
小作地 田	114.1ha	41.3ha
小作地 畑	31.0ha	12.0ha
専業農家	150戸	167戸
第1種兼業農家	119戸	153戸
第2種兼業農家	81戸	83戸

注) 上木島村「村勢要覧」より

《穂高村の自作・小作農地の面積と専・兼業別農家数》

	昭和22年	昭25年
自作農家	98戸	193戸
自小作農家	79戸	95戸
小自作農家	79戸	23戸
小作農家	54戸	6戸
専業農家	152戸	173戸
第1種兼業農家	126戸	104戸
第2種兼業農家	32戸	40戸

注) 穂高村「村勢要覧」より



○現代の生活

昭和 30 年代に有線放送施設の整備や上水道の整備、大塚沖基盤整備事業をはじめとする大規模なほ場整備が行なわれ、農業生産を中核とした新村建設に力が注がれました。高度経済成長期にあたった昭和 40 年代は、道路整備やスキーリフトの整備が行なわれ、夏のカヤの平、冬の木島平スキー場と観光産業が伸びた時代でもあります。

また、有線電話の自動化や村民会館、昭和 50 年の村体育館の完成などにより、住民相互のコミュニケーションや団体活動が盛り上がりました。さらに昭和 50 年代には村民祭の開催、馬曲温泉の開湯、スキー場のペアリフトの完成といった動きが活発になりました。

昭和 60 年には東京都調布市と姉妹都市盟約を締結し、昭和 63 年からは「わが村は美しく運動」も始まります。夏まつりが始まったのもこの時代です。ルクセンブルグとの交流も、この頃から現在までおよそ 20 年の歴史があります。平成の時代に入ってから、「自然劇場きじま平」をテーマに、豊かな自然や歴史的遺産、固有の文化の残る村を住民の舞台として、住民一人ひとりが生き生きと輝くことが目指されてきました。

平成 17 年には新しい総合情報通信システムが整備され、光ファイバーを利用した大容量の情報伝送が可能になりました。従来の有線放送の機能を引き継ぎながら、村の放送局「ふう太ネット木島平」が地域に密着した情報を各戸に配信しています。

馬曲温泉



「ふう太ネット木島平」の開局





現在、「農を基軸にした交流の村づくり」を柱とした村政が進められており、木島平の持つ資源や農村空間の魅力を活かし、農業の高付加価値化、ブランド化、農業体験や農村文化体験等の多様な観光メニューの創出、インターネットを活用した交流人口の拡大、人材育成による地域経済の活性化を目指しています。また、農山村の普遍的な機能や価値を高め、農村と都市、人間と自然が共生できる社会を実現するため、「農村文明の創生」に向けた取り組みを進めています。

調布市立第八中学校の農業体験



木島平村年表

和 暦	西 暦	木島平周辺の動き	日本の動き
	2 世紀後半 ~3 世紀初 頭	根塚に渦巻紋装飾付鉄剣が埋めら れる	239 年 卑弥呼 帯方郡に遣使 601 年~飛鳥時代 607 年 小野妹子遣隋使 645 年 大化の改新 710 年~奈良時代 794 年~平安時代
寛喜元	1229	<small>なかのよしなり きじまひょうえのじょう</small> 中野能成と木島兵衛尉の志久見 山の鷹の子の争いを北条重時が裁 断する	
観応 2	1351	木島五郎と毛見実綱が毛見郷の地 頭を争う	
応永 7	1400	木島氏と毛見氏が大塔（長野市） 合戦に参戦する	
弘治 3	1557	木島出雲守が武田信玄に長尾景虎 の動静を報告する	1553 年 第 1 回川中島の戦い （以後 1564 年まで 5 回） 1560 年 桶狭間の戦い
永禄 1 1	1568	武田信玄が飯山城を陥れる 武田信玄が綱取（安田）より北を 市川信房にあてがう	1573 年~安土桃山時代
天正 1 0	1582	上杉景勝が綱取より北を市川信房 にあてがう	1582 年 本能寺の変
天正 1 2	1584	市川信房が泉龍寺に犬飼郷内の地 を寄進	
慶長 3	1598	上杉景勝の会津移封にともない、 市川氏をはじめ北信濃のほとんどの 地侍が会津に移住する	1600 年 関ヶ原の戦い 1603 年~江戸時代
慶長 7	1602	松代城主森忠政領になり検地を受 ける	
慶長 1 6	1611	<small>ほおりなおより</small> 飯山城主堀直寄の支配となり用水 堰・新田開発が行なわれる	
元和 2	1616	岩城貞隆が中村に陣屋を置いて岳 北地方 1 万石を支配する	
寛永元	1624	中村に幕府の代官所が設置される	1633 年 鎖国令
寛永 1 6	1639	松平忠俱が飯山城に入封する	1643 年 土地の永代売買禁止
慶安 4	1651	飯山藩が木島平緒村の検地を実施 する	
万治元	1658	深沢堰用水につき、木島平村々と 樽川の水利権が問題となり為替水 により解決する	
寛文年間	1661 ~ 1672	糠塚新田・山口新田・計見新田等 の開発が進み、飯山藩の検地を受 ける	

和 暦	西 暦	木島平周辺の動き	日本の動き	
元禄元	1688	この頃から内山紙漉きに対し紙漉き運上（税）が課される	1702年 赤穂四十七志の討入	
元禄8	1695	大持坂の帰属をめぐり上木島村と夜間瀬村の境界争いが起こる		
元禄10	1697	木島山の境界ついて幕府裁許が出て木島平が敗訴する		
元禄11	1698	木島山の境界争いは巢鷹山の木印が証拠となり木島平 18 カ村が勝訴する		
宝永2	1705	飯山藩の支配から天領中村陣屋の支配に変わる（上木島村はそのまま飯山藩永井氏領）		
正徳元	1711	飯山藩青山氏の支配となる		
享保2	1717	飯山藩から天領中野陣屋支配となる（明治維新まで）		1715年 享保の改革（徳川吉宗）
寛保2	1742	千曲川及び樽川・馬曲川の大洪水により村々が甚大な被害を被る		
明和8	1771	江戸廻米につき中野役所よりお触れあるが、翌年正月高井水内両郡の天領村々より請けがたき旨申し出る		1781年 浅間山の大噴火 天明の飢饉始まる
安永6	1777	年貢の納期繰上げ撤回を求めて木島平他 71 カ村の百姓が中野村へ押しかけて打ち壊しを決行する（安永中野騒動）		
寛政12	1800	野口保徹が門人6人と水穂神社に算額を奉納する		
文化8	1811	本山与右衛門が門人6人と一川谷大元神社に算額を奉納する	1847年 善光寺地震 1859年 安政の大獄 1860年 桜田門外の変 1868年 明治維新	
天保元	1830	この頃から内山紙漉きが湧水をもつ村内集落に広がる		
安政4	1857	この頃より木島平の養蚕業が盛んとなる		
慶応4	1868	伊那県が設置され、木島平は中野分局の統治下となる		
明治3	1870	中野県が設置され、中野県庁で東北信を治める		
		中野騒動で中野県庁舎ほか中野町と松川村で約500戸が焼失する		
明治4	1871	旧幕府軍の浪士隊と官軍（松代藩兵）が交戦する（飯山戦争）		
		中野騒動後に県庁を中野から長野へ移し長野県とする		

和 暦	西 暦	木島平周辺の動き	日本や世界の動き
明治 5	1872	求道学校（旧中部小）と六合学校（旧北部小）が開校	1872年 学制発布
明治 6	1873	上木島学校（旧南部小）開校	
明治 9	1876	往郷村発足 穂高村発足	
明治 1 2	1879	上木島村発足	
明治 2 3	1890	下高井高等小学校穂高分教場開校 穂高尋常高等小学校と改称、子守 学級設置、36年（1903）まで各小 学校に高等科設置されていく	1890年 大日本国憲法発布 1895年 日清戦争
明治 3 6	1903	長野中学校飯山分校開校 39年 に飯山中学校（現 飯山北高校）	1905年 日露戦争
明治 3 9	1906	郡立乙種農学校（現 下高井農林 高校）開校	
大正 9	1920	上木島村・往郷村に電灯つく。	1914年 第1次世界大戦 1923年 関東大震災
大正 1 4	1925	長野電鉄 中野・木島間が開通	
昭和 4	1929	中村郵便局で電話の通話業務開始	
昭和 7	1932	乗合自動車運行開始（飯山・中村・ 大町）	1932年 五・一五事件 1936年 二・二六事件
昭和 1 0	1935	綱切橋が永久橋として竣工	1941年 太平洋戦争おこる。
昭和 2 6	1951	組合立木島平中学校落成 除雪にブルドーザ導入	1945年 終戦（無条件降伏） 1953年 テレビ本放送開始
昭和 3 0	1955	木島平村誕生	
昭和 3 1	1956	中部地区で県下初の有線放送開始 全村有線放送施設完成	1958年 NHK(長野)テレビ放送開始
昭和 3 7	1962	木島平農協が誕生	
昭和 3 8	1963	木島平スキー場が開	1964年 東京オリンピック開催
昭和 4 1	1966	役場庁舎が完成	1965年 東海道新幹線開通
昭和 5 1	1976	自動電話交換局の完成	
昭和 5 7	1982	樽川が決壊し木島地区で大水害	
昭和 5 8	1983	馬曲温泉の開湯	
昭和 6 0	1985	東京都調布市と姉妹都市盟約締結	
平成 8	1996	根塚遺跡で渦巻紋鉄剣が発掘	1997年 長野冬季オリンピック開催
平成 9	1997	豊田飯山インターの供用開始	
平成 1 4	2002	長野電鉄木島線が廃線	2002年 阪神淡路大震災
平成 2 2	2010	木島平小学校が開校	

木島平村と周辺の統治（領主）

和 暦 西 暦	時代	木島平の統治	木島平周辺・飯山藩	おもな出来事
寛喜元年 1229	鎌倉時代	木島郷（上木島、下木島あたり） 木島氏		木島兵衛尉が中野能成と志久見山の鷹の子に付き争う
正平6年 1351	南北朝、室町時代	毛見郷（往郷あたり） 毛見氏		毛見実綱が木島五郎二郎の毛見郷の本栖平沢の地頭職違乱を幕府に訴える
元中4年 1387		犬甘郷（中村、犬甘北条）		二宮種氏が市河頼房に犬甘北条、中村を預ける
永享6年 1434		木島郷が蘆名（あしな）盛久領となる		
明応6年 1497	戦国時代	高梨政盛が高梨高秀に計見郷内の統治を任せる		
永正9年 1512		高梨澄頼が高梨孫次郎に中村郷の統治を任せる		
永禄11年 1568		市川信房	武田晴信（信玄）が市川信房に綱取（安田）より北の地を与える	
天正10年 1582	安土桃山時代	市川信房	上杉景勝が市川信房に綱取以北を統治させることを約束する	本能寺の変（1582）
1598頃		豊臣家の蔵入地（直轄地） 美濃犬山城主石川光吉の管理、実質 関一政の間接統治	関一政（飯山藩3万石）	
慶長5年 1600	江戸時代	川中島藩（松代藩）領	森右近大夫忠政（海津城主、森長可の実弟） 川中島4郡 13万7500石 更級郡、水内郡、埴科郡、高井郡	関ヶ原の戦い（1600） 森検地（右近検地）

慶長 8 年 1603	江戸時代	川中島藩（松代藩）領 飯山城代 皆川山城守広照	松平忠輝（海津城主、家康 6 男） 川中島 4 郡 18 万石 更級郡、水内郡、埴科郡、高井郡	
慶長 15 年 1610		飯山藩領	堀丹後守直寄（飯山藩 4 万石） 越後長岡へ移る	下木島、野坂田の新田開発、樽川の改修
元和 2 年 1616		信濃中村藩（1 万石） 岩城貞隆、吉隆父子の支配 岩城氏は旧北部小学校北側（御殿） 付近に陣屋を置き、代官を派遣して 岳北地方 1 万石の緒村を統治した	佐久間備前守安政（飯山藩 3 万石） 佐久間安長 佐久間安次	岩城貞隆は伊達正宗の従兄弟で、磐城藩 12 万石の大名であった。関ヶ原の戦い後、所領を没収されいったんは浪人となったが、徳川秀忠に見いだされ大名に取り立てられた。
元和 9 年 1623		幕府領 幕府代官の青木俊定、泉野長左衛門 ほか統治した	跡継ぎがなく佐久間家断絶	
寛永 16 年 1639		飯山藩領	松平遠江守忠俱（飯山藩 4 万石） 松平忠喬 遠州掛川へ移る	慶安、寛文年間に領内の総検地を実施した
宝永 2 年 1705		幕府領 幕府代官の窪島市郎兵衛と作右衛門 父子が中村に陣屋を置いて統治した 上木島村は飯山藩永井氏領であった	永井伊豆守直敬（飯山藩 3 万 3 千石）	
正徳元年 1711		飯山藩領	青山大膳亮幸侶、幸秀（飯山藩 4 万 8 千石）	
享保 2 年 1717		幕府領 中野代官所支配 文政から天保期に越後の代官所、弘化から嘉永期に埴科中之条代官所の支配に属したことがある	本多助芳（飯山藩 2 万石） 本多康明 本多助有 本多助盈 本多助受 本多助賢 本多助実 本多助成 本多助龍 木島平は本多氏の支配をまったく受けていない	1777 年に中野幕府領内で安永の騒動が起こる 飯山藩兵も出動 獄門 2 人、遠島 6 人、追放 3 人